

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県鳥取市

MOTO DAKA YUMI NO KI
本 高 弓 ノ 木 遺 跡

(1区～3区)

2011

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 鳥取河川国道事務所

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県鳥取市

MOTO DAKA YUMI NO KI
本 高 弓 ノ 木 遺 跡

(1区～3区)

2011

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 鳥取河川国道事務所

序

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う発掘調査には、平成20年度から着手し、同年に「松原古墳群」及び「本高弓ノ木遺跡」の発掘調査を鳥取県埋蔵文化財センターが実施しました。

このうち、鳥取市に所在する「本高弓ノ木遺跡」では古墳時代の水田耕作に関連したと考えられる溝状遺構や同時代の鉄刃を差し込んだ木製の穂摘み具が出土し、当時の稲作のようすや農具が鉄器化していく過程を知る上で貴重な発見となりました。これらは、当地域の農業史を解明する上で欠くことのできない調査成果となりました。

本書はその調査成果を報告書としてまとめたものです。この報告書が、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財が郷土の誇りとなることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省鳥取河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成23年3月

鳥取県埋蔵文化財センター
所 長 久保 穰二郎

序 文

一般国道9号は山陰地方を東西に結ぶ主要幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。このうち、国土交通省鳥取河川国道事務所は、岩美郡岩美町(鳥取-兵庫県境)から鳥取市までを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

鳥取西道路は、鳥取市本高から同市青谷町青谷にかけての、一般国道9号の交通渋滞の緩和、災害時や緊急時における緊急輸送の代替路線としての機能分担などを目的とし、さらに、山陰の地方都市間の連携を強化するとともに、環日本海交流の基幹軸の一翼を担う高規格幹道路(自動車専用道路)として整備を行っています。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、平成20年度は「松原古墳群」、「本高弓ノ木遺跡」などについて鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第94条の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に記録保存のための発掘調査を実施することとなり、鳥取県埋蔵文化財センターと発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査が行われました。

本書は、「本高弓ノ木遺跡」の発掘調査の成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深め、さらに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省においても文化財保護に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた鳥取県埋蔵文化財センターの皆さまに、心から感謝申し上げます。

平成23年3月

国土交通省 鳥取河川国道事務所
所 長 田 中 衛

例 言

- 1 本報告書は、国土交通省鳥取河川国道事務所の委託により、鳥取県埋蔵文化財センターが国道9号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成20年度に行った、本高弓ノ木遺跡1区～3区の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書に記載した本高弓ノ木遺跡の所在地は、鳥取県鳥取市本高97番地外である。調査面積は2,463㎡である。
- 3 本報告書で示す標高は、2級基準点TK - 31を基点とする標高値を使用した。方位は、公共座標北を示す。なお、磁北は座標北に対し6°3′23″西偏、真北は約4′43″東偏する。X：、Y：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第V系の座標値である。
- 4 本報告書に記載の地形図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「鳥取北部」・「鳥取南部」・「浜村」・「鹿野」、鳥取市発行の「鳥取市都市計画図」の一部を使用した。
- 5 本報告にあたり、基準杭・方眼杭打設、調査後航空写真撮影を業者委託した。
- 6 本報告書に記載した遺物の実測・浄書は鳥取県埋蔵文化財センターで行った。
- 7 本報告書で使用した遺構・遺物写真は調査担当職員が撮影した。
- 8 本報告書の編集・執筆は北・岩垣が行った。
- 9 発掘調査によって得られた図面、写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管している。
- 10 報告書作成に当たって、下記の方々及び機関に指導、助言、御協力いただいた。
魚津知克、工楽善通、山田昌久(50音順、敬称略)、鳥取市教育委員会

凡 例

- 1 遺物の注記における遺跡名には「弓ノキ」を略号とし、合わせて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。
- 2 本報告書では遺構名に略号を用いていないが、以下のものは調査時に遺構略号を用いた。
溝状遺構：SD
- 3 本報告書における遺構番号は発掘調査時から変更したものがあり、両者の対応は下の対照表に示した。

調査区	報告遺構名	調査時名称	調査区	報告遺構名	調査時名称
1区	溝 1	SD 1	3区	溝 7	SD 3
2区	溝 2	SD 7		溝 8	SD 8
	溝 3	SD 4 (中央)		溝 9 (新)	SD 4 (上部)
	溝 4 (西)	SD 4 (西)		溝 9 (古)	SD 4 (下部)
	溝 4 (東)	SD 4 (東)		溝10	SD 2
	溝 5	SD 6		杭列・構造物群(新)	SD 4 西杭列・東杭列(上部)
	溝 6	SD 5		杭列・構造物群(古)	SD 4 東杭列(下部)

- 4 本報告書における実測図は、基本的に下記の縮尺で掲載したが、特殊なものについては、その都度縮尺を変更している。
(1) 遺構図：1/40・1/80
(2) 遺物実測図 - 土器：1/4、木製品：1/2・1/4・1/10、玉：1/2
- 5 遺構図・遺物実測図に用いたトーンおよび記号は、特に説明がない限り以下のとおりである。
土層断面図中の記号 D：攪乱、■：基盤層、▨：石、■：木製品
W：木製品、S：石製品、■：赤色塗彩範囲
遺物出土ポイント：●(土器類)・○(木製品)
- 6 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、それ以外のものは白抜きで示した。
- 7 遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。
- 8 本報告書で用いた土壌・土器の色名は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』によっている。また、土壌色名に続く()内にはマンセル記号を併記した。
- 9 本報告書における遺構・遺物の時期決定は下記参考文献に基づいている。

【参考文献】

- 1 清水真一 1992「因幡・伯耆地域」正岡陸夫・松本岩雄編『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社
- 2 谷口恭子・前田均1991「第4章まとめ 第2節遺物について」『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取市文化財報告書30
- 3 牧本哲雄 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ 園第6遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書61
- 4 田辺昭三 1981『須恵器大成』 角川書店
- 5 八峠興1998「山陰における中世土器の変遷について」『中近世土器の基礎研究』XⅢ 日本中世土器研究会
- 6 中森 祥 2006「鳥取県における中世後期土師器の展開」『調査研究紀要』1 鳥取県埋蔵文化財センター

目 次

卷頭図版	
序	
序文	
例言	
凡例	
第1章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過と方法	1
第3節 調査体制	2
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	
第1節 調査成果の概要	7
第2節 1区の調査	9
第3節 2区の調査	15
第4節 3区の調査	22
第4章 自然科学分析の成果	
第1節 本高弓ノ木遺跡における放射性炭素年代測定	57
第2節 本高弓ノ木遺跡における樹種同定	59
第3節 本高弓ノ木遺跡3区における珪藻分析	62
第4節 本高弓ノ木遺跡3区における植物珪酸体分析	74
第5章 総括	81
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	第10図 2区遺構配置図	15
第2図 周辺遺跡分布図	5	第11図 2区土層断面図	16
第3図 調査地の位置	8	第12図 溝2	17
第4図 調査地全体図	9	第13図 溝3	18
第5図 1区遺構配置図	10	第14図 溝3出土土器	18
第6図 1区土層断面図	11	第15図 溝4(1)	19
第7図 溝1	12	第16図 溝4(2)	20
第8図 1区包含層出土遺物(1)	13	第17図 溝4出土土器	20
第9図 1区包含層出土遺物(2)	14	第18図 溝5	21

第19図	溝 6	21	第43図	杭列・構造物群(新)構造物 1、杭列 1・2 木製品	41
第20図	2 区包含層出土土器	21	第44図	杭列・構造物群(新)構造物 2、杭列 3・4 木製品	42
第21図	2 区包含層出土木製品	21	第45図	溝 9 (古)、杭列・構造物群(古)平面図	43
第22図	3 区遺構配置図	22	第46図	杭列・構造物群(古)断面図・立面図	44
第23図	3 区北壁土層断面図(1)	23	第47図	溝 9 (古)出土土器	45
第24図	3 区北壁土層断面図(2)	24	第48図	溝 9 (古)最下層出土土器	45
第25図	溝 7	25	第49図	溝 9 (古)出土木製品(1)	46
第26図	溝 7 出土遺物	25	第50図	溝 9 (古)出土木製品(2)	47
第27図	溝 8・9、杭列・構造物群平面図	26	第51図	杭列・構造物群(古)木製品(1)	48
第28図	溝 8・9、杭列・構造物群土層断面図	27	第52図	杭列・構造物群(古)木製品(2)	49
第29図	溝 8・9、杭列・構造物群最上層遺物出土状況	28	第53図	溝 10	50
第30図	溝 8・9、杭列・構造物群最上層出土土器	29	第54図	溝 10 出土遺物	51
第31図	溝 8・9、杭列・構造物群最上層出土木製品(1)	30	第55図	3 区包含層出土土器	51
第32図	溝 8・9、杭列・構造物群最上層出土木製品(2)	31	第56図	3 区包含層出土木製品	52
第33図	溝 8・9、杭列・構造物群最上層出土木製品(3)	31	第57図	本高弓ノ木遺跡 3 区における主要珪藻ダイアグラム(1)	70
第34図	溝 8 出土土器	32	第58図	本高弓ノ木遺跡 3 区における主要珪藻ダイアグラム(2)	71
第35図	溝 8 出土木製品	32	第59図	本高弓ノ木遺跡 3 区における主要珪藻ダイアグラム(3)	72
第36図	杭列・構造物群(新)の遺構名称	33	第60図	本高弓ノ木遺跡 3 区における主要珪藻ダイアグラム(4)	73
第37図	溝 9 (新)、杭列・構造物群(新)平面図	35・36	第61図	本高弓ノ木遺跡 3 区基本層序(北壁)における植物珪酸体分析結果	78
第38図	杭列・構造物群(新)断面図・立面図	37	第62図	本高弓ノ木遺跡 3 区基本層序(自然河道)における植物珪酸体分析結果	79
第39図	溝 9 (新)出土土器	38	第63図	本高弓ノ木遺跡溝 9 における植物珪酸体分析結果	80
第40図	構造物 1 出土土器	38			
第41図	杭列・構造物群(新)構造物 1 木製品(1)	39			
第42図	杭列・構造物群(新)構造物 1 木製品(2)	40			

挿表目次

表 1	出土土器観察表(1)	53	表 8	本高弓ノ木遺跡における樹種同定結果	60
表 2	出土土器観察表(2)	54	表 9	本高弓ノ木遺跡 3 区における珪藻分析結果(1)	68
表 3	出土木製品観察表(1)	55	表 10	本高弓ノ木遺跡 3 区における珪藻分析結果(2)	69
表 4	出土木製品観察表(2)	56	表 11	本高弓ノ木遺跡 3 区における植物珪酸体分析結果	75
表 5	出土玉類観察表	56			
表 6	測定試料及び処理	57			
表 7	測定結果	57			

巻頭図版目次

巻頭図版 1

- 1 調査地遠景(南から)
- 2 溝9(新)、杭列・構造物群(新)検出状況(南西から)

巻頭図版 2

- 1 溝9、杭列・構造物群出土穂摘具(保存処理後)
- 2 穂摘具W10(保存処理前)
- 3 穂摘具W53(保存処理前)

図版目次

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--|--|
| PL. 1 | 1 調査後航空写真(北から) | | |
| | 2 調査後航空写真(俯瞰) | | |
| PL. 2 | 1 調査前風景(北から) | | |
| | 2 調査前風景(南東から) | | |
| | 3 調査前風景(北東から) | | |
| PL. 3 | 1 1区完掘状況(北から) | | |
| | 2 1区完掘状況(南西から) | | |
| | 3 1区完掘状況(東から) | | |
| | 4 1区西壁土層断面(北東から) | | |
| | 5 1区北壁土層断面(南東から) | | |
| PL. 4 | 1 溝1完掘状況(北から) | | |
| | 2 溝1土層断面(南から) | | |
| | 3 1区包含層田下駄出土状況 | | |
| | 4 2区完掘状況(南西から) | | |
| PL. 5 | 1 2区完掘状況(北東から) | | |
| | 2 2区完掘状況(北西から) | | |
| PL. 6 | 1 2区北壁土層断面(南東から) | | |
| | 2 溝2土層断面(南から) | | |
| | 3 溝3・溝4土層断面(南から) | | |
| | 4 溝3土層断面(南から) | | |
| | 5 溝4(西)土層断面(南から) | | |
| | 6 溝4(東)土層断面(南から) | | |
| PL. 7 | 1 溝4杭列検出状況(南から) | | |
| | 2 溝4杭列検出状況(南西から) | | |
| | 3 溝4木製品出土状況(北から) | | |
| | 4 溝5土層断面(南西から) | | |
| | 5 溝6土層断面(南西から) | | |
| PL. 8 | 1 3区北壁(西端部)土層断面(東から) | | |
| | 2 3区北壁(F7グリッド周辺)土層断面(南西から) | | |
| | 3 3区北壁(J7グリッド周辺)土層断面(南東から) | | |
| PL. 9 | 1 溝7遺物出土状況(南西から) | | |
| | 2 溝7遺物出土状況(北東から) | | |
| | 3 溝8・9、杭列・構造物群検出状況(西から) | | |
| PL.10 | 1 溝9(新)、杭列・構造物群(新)検出状況(西から) | | |
| | 2 溝9(新)、杭列・構造物群(新)検出状況(南西から) | | |
| | 出状況(南西から) | | |
| PL.11 | 1 穂摘具(W10)出土状況(北から) | | |
| | 2 平鋤(W11)出土状況(北から) | | |
| | 3 構造物1周辺木製品出土状況(北から) | | |
| PL.12 | 1 構造物2周辺木製品出土状況(東から) | | |
| | 2 杭列1木製品出土状況(南西から) | | |
| | 3 溝9(新)、小溝、杭列・構造物群(新)完掘状況(西から) | | |
| PL.13 | 1 溝9(新)、小溝、杭列・構造物群(新)完掘状況(南西から) | | |
| | 2 小溝、構造物1、杭列1・2完掘状況(北から) | | |
| PL.14 | 1 小溝、構造物1、杭列1・2完掘状況(西から) | | |
| | 2 溝9(新)土層断面(北から) | | |
| | 3 小溝土層断面(北から) | | |
| PL.15 | 1 杭列1完掘状況(北から) | | |
| | 2 杭列2完掘状況(北東から) | | |
| | 3 杭列1・2、構造物1完掘状況(北から) | | |
| PL.16 | 1 杭列1完掘状況(北西から) | | |
| | 2 杭列2完掘状況(東から) | | |
| | 3 杭列3・4完掘状況(北西から) | | |
| | 4 杭列3完掘状況(南東から) | | |
| | 5 杭列4完掘状況(北西から) | | |
| PL.17 | 溝9(古)・杭列4・構造物3完掘状況(北東から) | | |
| PL.18 | 1 杭列4・構造物3完掘状況(東から) | | |
| | 2 構造物3完掘状況(東から) | | |
| PL.19 | 1 構造物4完掘状況(北西から) | | |
| | 2 溝9(古)完掘状況(北から) | | |
| | 3 溝9土層断面(南から) | | |
| PL.20 | 1 溝9(古)、杭列・構造物群(古)完掘状況(俯瞰) | | |
| | 2 溝10完掘状況(北から) | | |
| | 3 溝10土層断面(北から) | | |
| | 4 溝10土層断面(南西から) | | |
| PL.21 | 1 1区包含層出土土器(1) | | |

	2	1区包含層出土土器(2)		2	杭列・構造物群(新)出土木製品(6)
	3	1区包含層出土土器(3)	PL.31	1	杭列・構造物群(新)出土木製品(7)
	4	1区包含層出土木製品(1)		2	溝9(古)出土土器(1)
	5	1区包含層出土木製品(2)		3	溝9(古)出土土器(2)
PL.22	1	溝3出土土器		4	溝9(古)出土石製玉
	2	溝4出土土器(1)	PL.32		溝9(古)出土土器(3)
	3	溝4出土土器(2)	PL.33	1	溝9(古)出土土器(4)
	4	溝7出土土器		2	溝9(古)出土土器(5)
	5	溝3、2区包含層出土土器		3	溝9(古)出土穂摘具W53
PL.23	1	2区包含層出土木製品		4	溝9(古)出土穂摘具W54
	2	溝8出土木製品	PL.34	1	溝9(古)出土木製品(1)
PL.24		溝8・9、杭列・構造物群出土土器		2	溝9(古)出土木製品(2)
PL.25	1	溝8・9、杭列・構造物群最上層出土土器	PL.35	1	杭列・構造物群(古)木製品(1)
	2	溝8・9、杭列・構造物群最上層出土穂摘具W10(1)		2	杭列・構造物群(古)木製品(2)
PL.26	1	溝8・9、杭列・構造物群最上層出土穂摘具W10(2)	PL.36	1	構造物4木製品(1)
	2	溝8・9、杭列・構造物群最上層出土一木平鋤W11		2	構造物4木製品(2)
	3	溝8・9、杭列・構造物群最上層出土木製品(1)	PL.37	1	溝10出土土器(1)
PL.27	1	溝8・9、杭列・構造物群最上層出土木製品(2)		2	溝10出土土器(2)
	2	溝8・9、杭列・構造物群最上層出土木製品(3)	PL.38	1	溝10出土木製品
PL.28	1	杭列・構造物群(新)出土木製品(1)		2	3区包含層ほか出土土器
	2	杭列・構造物群(新)出土木製品(2)	PL.39	1	3区包含層出土木製品(1)
PL.29	1	杭列・構造物群(新)出土木製品(3)		2	3区包含層出土木製品(2)
	2	杭列・構造物群(新)出土木製品(4)	PL.40		出土木製品の樹種1
PL.30	1	杭列・構造物群(新)出土木製品(5)	PL.41		出土木製品の樹種2
			PL.42		出土木製品の樹種3
			PL.43		出土木製品の樹種4
			PL.44		出土木製品の樹種5
			PL.45		出土木製品の樹種6
			PL.46		珪藻分析1
			PL.47		珪藻分析2
			PL.48		植物珪酸体分析

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

本調査は、一般国道9号鳥取西道路の改築工事に伴い、鳥取市本高地内の工事予定地内に所在する本高弓ノ木遺跡の記録作成を目的として、平成20年度に行ったものである。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替路線確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められている。

鳥取西道路の計画地内および隣接地には、多数の周知の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡並びに遺跡の範囲を確認する必要性が生じた。このため、平成19年度から鳥取市教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査が行われた。その結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえて、平成20年度に、鳥取県埋蔵文化財センターが国土交通省鳥取河川国道事務所の委託を受けて調査主体となり、本高弓ノ木遺跡の発掘調査を実施した。

第2節 調査の経過と方法

1 調査地の名称と調査方法（第3・4図）

本高弓ノ木遺跡は、千代川西岸の標高約8mの沖積地に立地する。調査地は、橋脚工事部分2箇所と、トレンチャー工法部分1箇所の3箇所に分かれていた。そこで、北から順に1区、2区、3区と名称をつけて調査を行った。1区は一辺約20mの正方形、2区は約16m×20mの長方形、3区は弧を描く南北幅約10m、東西約90mのトレンチ状の調査区を設定した。いずれの地区も地目は水田であった。

各地区とも、世界測地系に準拠する公共座標第V系に載るように10m方眼の基準杭を設定した。方眼南北ライン(X軸並行ライン)には西から昇順にアルファベットで名称を付し、方眼東西ライン(Y軸並行ライン)には北から昇順にアラビア数字で名称を付した。方眼杭の名称はそれぞれのライン名を組み合わせて、「H2杭」(X:-57150m、Y:-12300m)などと呼称した。方眼に載った10m平方を示すグリッド名には、北西の方眼杭名を採って、「H2グリッド」(=H2杭・I2杭・I3杭・H3杭で囲まれた範囲)などと呼称した。標高値は、2級基準点TK-31の12.773mを使用している。

排水溝を兼ねた土層観察用のトレンチ掘削はスコップ、包含層および遺構掘削は移植ゴテ・ガリまたはクワ・ジョレンを用いて行い、遺物の集中する箇所については移植ゴテと竹ベラを用いて掘削を行った。地盤が極めて軟弱で、常に帯水する条件のため、掘り下げは非常に困難であった。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシットおよび自動レベルを用い、簡易遣り方測量および光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判により地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況及び遺跡の完掘状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判および4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

2 調査の経過

9月24日から9月30日にかけて重機を用いて表土掘削を行った。その後、10月1日に発掘調査に着手した。ただし、鳥取県埋蔵文化財センター調査担当(美和事務所)では、鳥取西道路改築に伴う発掘

第1章 調査の経緯

調査として別件の調査(松原古墳群)を行っていたため、同日からは本高弓ノ木遺跡の調査を大規模に行うことができなかった。そのため、調査員1名と作業員8名程度の、わずかな人員で調査に着手せざるを得なかった。作業は各調査区の外周などに排水溝を兼ねた約60cm幅のトレンチを掘削することから始めた。このトレンチによって各調査区の遺構・遺物包含層の確認を行った。10月14日には松原古墳群の調査が終了し、すべての調査員、作業員が本高弓ノ木遺跡に合流し、本格的な調査が始まった。本格的な掘り下げは1区から着手し、1区の調査終了後、3区、続いて2区の調査を開始した。

1区の面的な掘り下げは10月14日に着手した。10月17日に溝1を検出して掘り下げを開始し、10月20日に完掘した。1区の調査は10月22日に終了した。2区の調査は11月11日に着手した。2区は、排土搬出の都合上、表土除去を行っていなかったため、11月11日から12日にかけて重機による表土掘削を行った。その後、排水溝を兼ねたトレンチの掘削と、面的な掘り下げを開始した。11月14日に遺構を検出して掘り下げを開始し、11月27日にすべての遺構を完掘、12月2日に2区の調査は終了した。

3区の面的な掘り下げは10月20日に着手した。10月29日には木製品を多く含む溝9などの遺構群を検出したほか、調査地東部では溝10を検出した。溝9とその周辺からは木製品が多量に出土しただけでなく、杭や矢板、木造構造物が多数検出されたため、調査に最も多くの作業量を費やした。溝9周辺の遺構群は12月9日に完掘した。発掘作業員の稼働は12月9日に終了し、12月10日に航空写真撮影を行ってすべての作業を終了した。調査面積は2,463㎡である。

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長	久保 穰二郎
次 長	田村 隆志(兼総務係長 平成20年6月30日異動・転出)
総 務 係	
係 長	梅山 昭美(平成20年7月1日異動)
副 主 幹	福島 良
主 事	浜辺 奈都美

発掘事業室

室 長	山柁 雅美(兼調整係長)
調 整 係	
文化財主事	濱 隆造

調査担当(美和調査事務所)

文化財主事	小口 英一郎(調査担当責任者)、野田 真弓、北 浩明
発掘調査員	岩垣 命